

博物館NEWS

ニュース



● *Culture Club* 田芋を知りませんか？

● 館藏品紹介 カラスアゲハの性モザイク個体

● 企画展 銅鐸の美

● 速報！！ 最近出土した徳島大空襲戦災遺物

● レファレンスQ&A 吉野川には何種類の魚がいるの？

田芋を知りませんか？

庄武 憲子

私は、芋を探しています。それは、田芋^{たいも}、もしくは水芋^{みずいも}という芋です。どなたかこの芋を見たこと、作ったことはありませんか？

1 田芋とはどんな芋か

田芋の栽培は、薩南、奄美、沖縄、先島等の南西諸島では、わりとよく見かけることができます。その姿形は、一見すると里芋とほとんどかわりません(図1)。ただ、里芋とはきり違うのは、まず混水(流水)、つまり水の中に植えて栽培するという点です。ちょうど稲を、水をいれた田圃^{たんぼ}で育てるのと同じです(図2)。



図1 田芋。鹿児島県十島村(口之島)。赤い芽と白い芽の2種類がある。

また、里芋は春植え付けて、その年の夏から秋にかけて収穫できますが、田芋は、芋の収穫に1年~2年かかり、植えたまま冬を越します。さらに植えているあいだ、芋の葉柄^{ようへい}を随時(特に夏季)として野菜として利用します。最後に芋を食べた時、里芋に比べて非常にモチモチとした感じを受け



図2 田芋栽培の様子。鹿児島県和泊町内城(沖永良部島)。地元人は「ターリウム」と呼んでいる。

ます。これは、田芋の芋に加熱すると粘着^{ねんちやく}性を増す独特の澱粉^{でんぷん}が含まれているためだといわれています。

2 儀礼と田芋

南西諸島においては、田芋が、年中行事や祭などのに使用される食物として、非常に大切な役割を果たしています。沖縄本島北部、与論島^{よろんじま}、沖永良部島^{おきのえらぶ}、奄美大島では、旧暦の一月十五日頃、先



図3 口之島の霜月祭。ネーシ(内侍)と呼ばれる女性と、ホーイ(祝人)と呼ばれる男性の神役を中心に行れる。

祖や神棚に、田芋を米粉^{かんしょ}、甘藷などと混ぜ、練ったりついたりして作った、田芋の餅と呼べる食物を、供える行事を行ったことが聞かれます。例えば、与論島では、旧暦1月15日を「チキナー(月の真ん中)」といって、「ウンニーマイ」(田芋を煮て、米の粉を溶かしたものを混ぜ、芋の姿がまったくなくなるまでつぶしたもの)を必ず作り、先祖にお供えする行事がありました。このとき、ウンニーマイをたべないと「ミヤンチックー(鼻)」になるよという面白い習わしが伝えられています。さらに、沖縄本島北部、奄美大島、トカラ列島では、旧暦^{しもつき}の霜月に芋祭が行われていた地域があり、収穫された田芋が供物として使われます。トカラ列島の一番北に位置する口之島というところでは、現在でも「霜月祭り」という田芋の収穫祭を見ることができます。(図3,4)。

3 稲以前の作物としての田芋

行事において、先祖、神棚への供物に使用されたり、収穫祭が存在していることなどから、南西諸島においては、田芋が何か重要な意味を持つ作物であったことが窺^{うかが}えます。事実、水の中に植えられた芋は、獣害にあいにくく、さらに、芋だけでなく葉柄も食料として使用できるという利点などがあげられ、大事にされてきました。いわば、南西諸島には、田芋文化と呼べ

図4 霜月祭のために集落一軒一軒から田芋が集められる様子(A)と集められた芋(B)。田芋を作っていない家では、里芋や甘藷をかわりに出す。

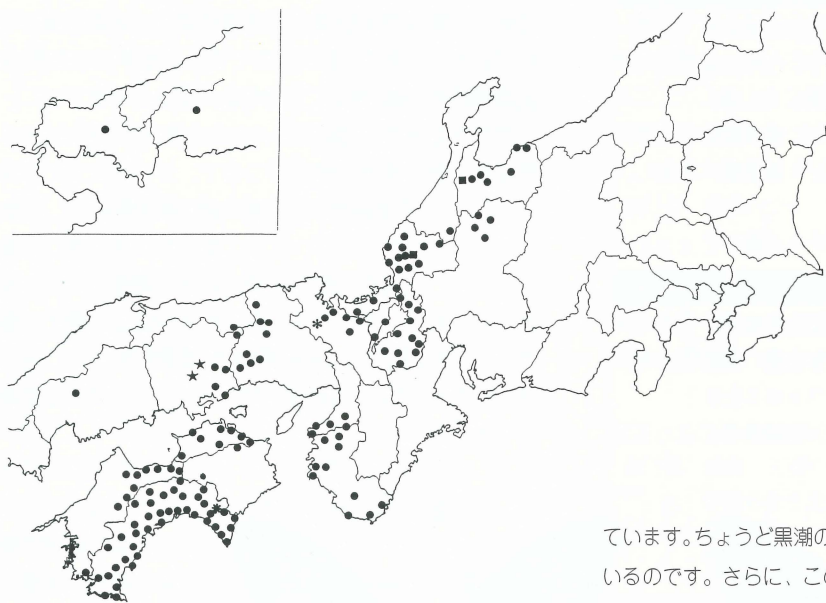


図5 里芋の名称：
 TAIMO (●), TEIMO (✱),
 TEEMO (★), TAIMBO (✱),
 TANBOIMO (■), TAHODO (▼)
 (国立国語学研究所 『日本語地
 図4』、1970より作図)

るものが存在していると考えられるのです。

また田芋の栽培は、芋の上部から葉柄の根元の下の方をきり
 とったものを植えつけて、芋が大きくなったら必要な分だけ収
 穫する、また、道具も鎌一つあればことたりる、という非常に
 原初的なものです。そのうえ、先にも書いたように、水田で栽
 培する稲と栽培方法が類似すること、芋餅としての使われ方な
 どから、水田稲作が行われる以前に、水田芋作が行われていた
 のではないかという考えもあります。田芋の存在は、日本の農
 耕の歴史を考えるのに意義あるものなのです。

4 黒潮の流れと田芋

最後に南西諸島で栽培される田芋がどこからきたのかという
 ことを考えましょう。この芋は熱帯型のものと考え、南方から
 入ってきたことがいわれています。先島諸島をへた台湾、
 紅頭嶼でも、同様に田芋作が行われており、収穫感謝祭に、
 粟、山芋、里芋などとともに田芋が供えられることも報告され

ています。ちょうど黒潮の流れにそって、田芋文化が展開して
 いるのです。さらに、この南からの田芋文化はどこまでつな
 がっているのでしょうか？南西諸島を北上すると、田芋の存在
 は珍しいものになりますが、九州や、中国地方、伊豆諸島等
 で、ぼつぼつと田芋の栽培が報告されています。徳島県にほど
 近い、淡路島の南西にある沼島ぬしまという島でも、田芋栽培があっ
 たことがいわれています。しかし、これらが南西諸島での田芋
 と同じ種類のものかははっきりわかっていません。

また、田芋の栽培はなくても、里芋のことを「タイモ」と呼
 ぶ地方はたくさんあります。
 特にお隣の、黒潮に直接面する高知県では、里芋のことを「タイ
 モ」と呼ぶのが通常です(図5)。

私はこのような地域では、かつては黒潮の流れにそって伝
 わった田芋が存在していたのではないかと考えているのです。
 そこで、その証拠をつかむために田芋を探しているわけです。

どうぞ、田芋やそれに似た芋に心あたりのある方は、県立博
 物館にご一報ください。よろしく願いいたします。

(学芸員：民俗担当)

カラスアゲハの性モザイク個体

これはカラスアゲハのオスメス標本です！

オスメス標本？ 写真をよく見ていただくと、左右の後翅（後ろパネ）の色と模様が違うことに気がつくでしょう。この個体はほとんどオスなのですが、右の後ろパネだけはメスの特徴がそのまま現れています。

この標本は、鴨島養護学校の横内靖彦さんが育てた中の1匹で、一緒にこの蝶を育ててくれた大塚義樹先生を通じて、当博物館に寄贈されたものです。1995年5月に、大塚先生が美馬郡一宇村のつづろ堂で採集したメスに卵を産ませ、それを横内さんが一生懸命に育てたところ、7月7日にこの蝶が親になりました。この蝶が、オスとメスが混ざって現れた個体であると気がつき、これは貴重なものだからと、博物館へ寄贈して下さいました。

昆虫にはこの標本のように、1つの個体にオスの部分とメスの部分が混ざって現れることがあります。極端な場合は、オスとメスが右と左に半分ずつ現れる場合があります（ニュース6号に左右での雌雄型を紹介してあります）。

ふつう、卵が受精した時には、性染色体によってオ

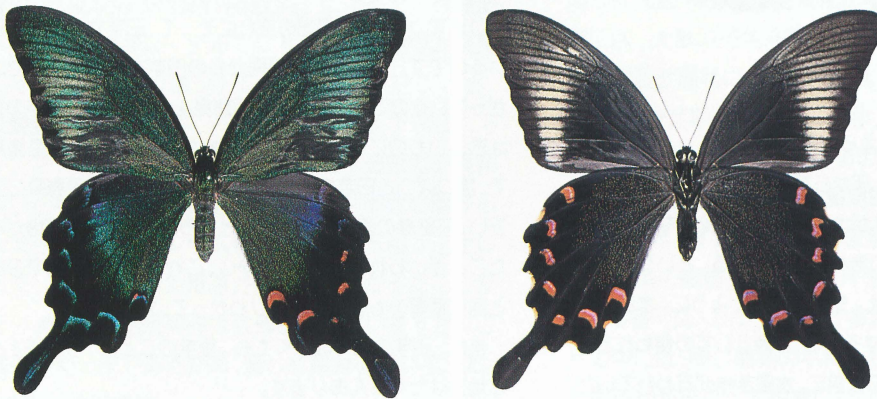
スカメスのどちらか一方の性に決まって発生していくのですが、その一部が何らかの異常で、決まっていたものとは逆の性になってしまい、そのまま発生を続けていったためこのような現象が生じたと考えられています。しかし、このような例はきわめて少なく、その仕組みもまだはっきりとは解明されていません。

この標本では、右後ろパネがメスであると書きましたが、正確にはそのように単純ではなく、そのほかの部分にも少しずつですが、オスの形質の中にメスの形質が混じり込んでいます。まさに性モザイク個体なのです。左右の前パネには、オスにしかない性標とよばれるピロード状の毛を持ち、左の後ろパネの外側に近い部分には、青緑色の細い帯状の紋を持つので、オスと考えられます。しかし、右の後ろパネの紋は赤色の半月状で、これはメスにしか見られない斑紋です。また、前パネの中央部付近から先端部にかけて、あちこちに黄色みの強い鱗粉が細い帯状に入っていますが、これはメスに表れる特徴で、オスではほとんどが青緑色の鱗粉ですので、前パネにもあちこちメスの形質が混じり込んでいることがわかります。

このような標本はなかなかお目にかかることができない貴重なものです。

大原賢二
(主任学芸員：昆虫担当)

図1
カラスアゲハの性モザイク個体。
左：表側、右：裏側



新着資料紹介（1995年11月～1996年1月）

考 古 復元青銅器（購入）
 歴 史 古語拾遺 [嘉禄本] レプリカ（購入）、
 太平洋戦争白書—米国戦略爆撃調査団報
 告書（購入）
 美術工芸 広輝筆・松鷹図（購入）
 民 俗 刻み煙草版木（購入）、フゴほか（寄贈）

動 物 キツネ（寄贈）、タカアシガニ（寄贈）
 植 物 廻国奇観、校正救荒本草、救荒野譜補
 遺ほか（購入）
 地 学 しゅんせつ土の中の貝殻（寄贈）、自然金
 ほか外国産鉱物（購入）、ゴトランド島産
 シルル紀化石（購入）

銅鐸の美

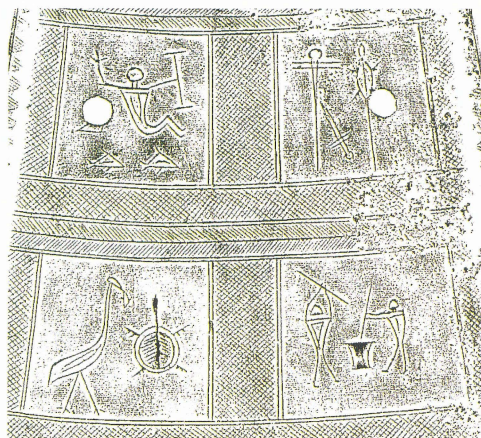
銅鐸は弥生時代に稲作のまつりに使われたカネといわれています。これまで、西日本を中心に約430個ほど発見されていますが、徳島県内からは、その約1割が見つかっています。徳島県は有数の銅鐸出土地です。

銅鐸ほど謎の多い遺物はありません。いつ、どこでつくられ、どのように使われ、なぜ埋められたのか。銅鐸に描かれたシカやトンボは何を意味するのか。いまだ解明されていない謎も多くあります。

この企画展は、国立歴史民俗博物館が企画し、全国5会場を巡回するもので、銅鐸のつくり方やうつりかわり、銅鐸絵画の意味、銅鐸のまつりや埋納など銅鐸に秘められた謎を多面的に紹介するものです。

- 主催 徳島県立博物館・毎日新聞社
- 会期 平成8年4月2日(火)～5月12日(日)
休館日月曜(休日の場合は翌日)
- 会場 徳島県立博物館企画展示室
徳島県立21世紀館多目的活動室
- 観覧料 大人 400円(320円)
高・大学生 200円(160円)
小・中学生 100円(80円)
()内は20名以上の団体

- 主な展示品
 国宝 兵庫県桜ヶ丘2,4号銅鐸 神戸市立博物館蔵
 重文 徳島県田村谷銅鐸 田村家蔵
 重文 福岡県吉武高木遺跡出土細形銅剣・銅戈・銅矛
 福岡市博物館保管
 徳島県安都真銅鐸 高橋浪子氏蔵



兵庫県桜ヶ丘5号銅鐸の絵(神戸市立博物館蔵)

企画展関連行事

(1) 記念講演会

- 講師 国立歴史民俗博物館副館長 佐原真氏
- 日時 平成8年4月28日(日) 13:00～14:30
- 会場 徳島県立21世紀館 イベントホール
- 入場無料

(2) 解説講座

- 会場 博物館講座室
- 第1回 銅鐸のうつりかわり 講師 天羽利夫
平成8年4月7日(日) 13:00～14:30
- 第2回 銅鐸のまつり 講師 高島芳弘
平成8年4月14日(日) 13:00～14:30
- 第3回 銅鐸のつくり方 講師 魚島純一
平成8年4月21日(日) 13:00～14:30

(3) 企画展解説

- 会場 博物館企画展示室
- 第1回 講師 国立歴史民俗博物館副館長 佐原真氏
平成8年4月2日(火)
10:30～11:30、14:00～15:00
- 第2回 講師 天羽利夫
平成8年5月5日(日) 14:00～15:00
- 第3回 講師 高島芳弘
平成8年5月12日(日) 14:00～15:00



鳥取県泊銅鐸【複製】(原品:東京国立博物館蔵)

最近出土した徳島大空襲戦災遺物について

1945年7月4日、徳島市は高松・高知・姫路とともに、アメリカ軍のB29爆撃機の攻撃により、人的・物的ともに著しい被害を受けました。

1995～96年に実施された公共施設の立て替え工事による発掘調査や徳島市の公園整備事業によって、焼夷弾破片・建築金具・陶磁器・ガラス・ビン・瓦・レンガなど、徳島大空襲の戦災遺物が多数出土しています。

ここでは、それらの発掘調査や公園整備事業で出土した徳島大空襲の戦災出土遺物について紹介します。

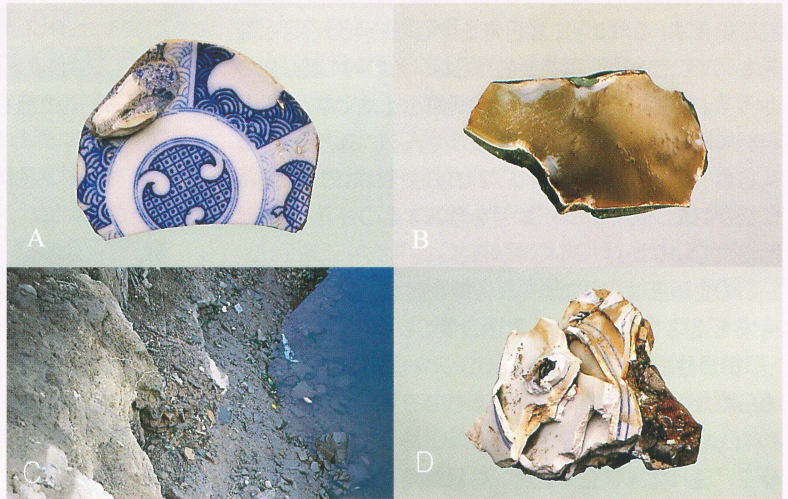


図1 出土した徳島大空襲の戦災遺物と出土状況。

1 徳島市常三島遺跡

1995年12月、徳島大学工学部の光応用施設の建築工事に伴い、徳島大学による発掘調査が実施されました。この調査で江戸時代の徳島藩の下級武士の屋敷跡から、約10個の焼夷弾の破片が出土しました。アメリカ軍の「Tactical Mission Report」によると、徳島に投下された焼夷弾は、テルミット・マグネシウム焼夷弾「AN-M17A1-500ポンドI. C.」（647.0トン）と、油脂焼夷弾「AN-M47A2-100ポンドI. B.」（403.8トン）で、前者は家屋の破壊、後者は木造家屋の焼却に用いられました。深さ約80cmの江戸時代の層からテルミット・マグネシウム焼夷弾の破片5個が出土したので、この焼夷弾の貫通力が極めて強かったことがわかります。油脂焼夷弾は数個出土していますが、この遺跡が湿地帯であるため、著しく腐食していました。

2 徳島保健所構内

1995年7月、徳島市新蔵町3丁目の徳島保健所の建築工事に伴い、徳島県埋蔵文化財センターによる発掘調査が実施されました。この調査で、磁器・ガラス片が15個出土しました。このうち磁器・ガラス片が固着した有田焼の磁器皿片（図1-A）と、内容物が溶解し皮膜状に固着したガラスビンの破片（図1-B）が出土しており、空襲による火災のすさまじさを示しています。

3 新町川公園（徳島市東船場町1丁目）

1996年1月、徳島市の公園整備事業で、葉ビン・皿・鉢・茶碗・湯飲みの磁器片や瓦・レンガなどが大量に出土しています。特に空襲まで、新町橋南詰めの東側にあった徳島・撫養間の定期船の船着き場の石段付近の西側には、大量の褐色系葉ビンが、また、石段の東側には大量の瓦が層状に埋もれていました（図1-C）。この付近は、当時定期船の乗客が利用した食堂や土産店などが軒をならべ、徳島では繁華街の一つでした。

4 新町川公園（徳島市東船場町2丁目）

1996年1月、徳島市の公園整備事業で、皿・鉢・茶碗・急須の磁器片やガラス片をはじめ、鋳・棚受け金具・蝶番・瓦・レンガなどが多数出土しています。磁器片の中には、同じ器物の小片と釘が固着した皿や炭化物と磁器片が重なって固着した団塊（最大、径14cm）3個があります（図1-D）。しかも、この団塊の磁器の釉薬は、火災の高熱で半溶解状を呈しています。いかにアメリカ軍の焼夷弾による攻撃が激しく、空襲による火災の熱が高熱だったかをうかがい知ることができます。

戦争体験の風化が急速に進んでいる現在、徳島大空襲の実相を私たちは正確に伝えていかなければなりません。これらの遺物はその手がかりになるものです。

山川浩實（人文課長：歴史担当）

Q. 吉野川には何種類くらいの魚がいますか？

吉野川には、河口から14 kmほど遡^{さかのぼ}ったところに江戸時代に作られた固定式の第十堰^{だいじゅうせき}があります。最近、それを可動式の堰に付け替えようという計画が建設省から出され、その是非を巡ってさまざまな議論がなされているのは、皆さんもご存知でしょう。そのせいか、博物館へも吉野川に棲^すむ魚についての問い合わせが増えてきました。吉野川にどんな魚が何種類くらいいるのかまとめてみました。

一口に淡水魚といっても生活の仕方はいろいろです。淡水魚の生活史を川と海とのかかわりに注目して分けると、純淡水魚、通し回遊魚^{かいりゅうぎょ}、そして周縁性淡水魚の3つのグループに分けることができます。図1は吉野川に棲む魚の種数をこれらのグループ別に集計したものです。各グループについて説明しておきましょう。

純淡水魚というのは一生を淡水域で生活する魚で、もっとも淡水魚らしい淡水魚といえます。これにはコイやオイカワなどの魚が含まれます。ただシウグイやカダヤシのように比較的塩分に強く、河口域でもふつうに見られる魚も少数ですが含まれます。

ところで図1の円グラフでは、純淡水魚をさらに2つに分けています。在来種^{ざいらいしゅ}というのは、元もと吉野川に棲んでいた魚のことで、移入種^{いりいしゅ}というのは人が持ち込んだ魚のことで、外国産のものもいれば、国内の他の川や湖からやってきた国産のものもあります。また移入種の中には、ブラックバスのように自然繁殖しているものもいれば、ソウギョのように自然繁殖していないと考えられるものもいます。それにしても純淡水魚52種のうち半数が移入種だったとは、その多さには驚きました。移入種は元からある生態系に影響を及ぼすので、このような事態は望ましくありません。

通し回遊魚^{かいりゅうぎょ}というのは、一生の間に川と海を必ず行き来する

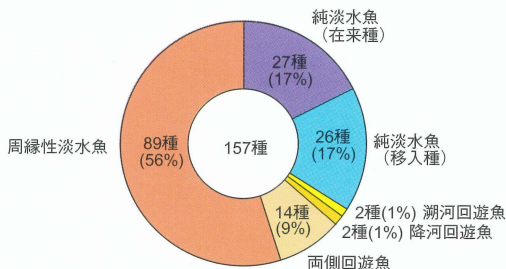


図1 吉野川産魚類の生活史型別種数

魚のことで、このグループは回遊のパターンによってさらに3つに分けることができます(図2)。

溯河回遊魚^{さうか}は、サケのようにふだんは海で生活し、産卵のときは川に上ってくる魚です。吉野川にはサケはいませんが、シラウオとアマゴの降海型のサツキマスの2種がいます。

降河回遊魚^{かうか}は、溯河回遊魚とは逆に、ウナギのようにふだんは川で生活し、産卵の時は海に下る魚です。吉野川にはウナギの他にアユカケがいます。

両側回遊魚^{りょうそく}は、ふだんは川で生活しますが、降河回遊魚とは異なり、川で産卵します。そして孵化した仔稚魚^{こなご}はいったんすぐに川を下り、赤ちゃんの時期を河口や海ですごします。吉野川にはアユの他にオオヨシノボリやヌマチチブなどのハゼ類がいます。

周縁性淡水魚^{しゅうえんせい}とは、汽水性の魚やたまたま河口域に侵入してくる海水魚を指します。前者にはマハゼやコノシロ、後者にはアカエイやマサバが含まれます。しかしこれらの中間にはボラやクロダイのように、幼魚期にかなり積極的に河口域を利用する魚もあり、川を利用する程度は種によりまちまちです。

吉野川からは以上のようなグループの魚が、全部で157種が記録されています。しかし、これらのうちにはカジカのようにすでに絶滅したものや、アオギスのように絶滅一歩手前と考えられるものもいます。また、今後の調査の進展によって新たに確認される魚もいることを付け加えておきます。

佐藤陽一(主任学芸員:動物担当)

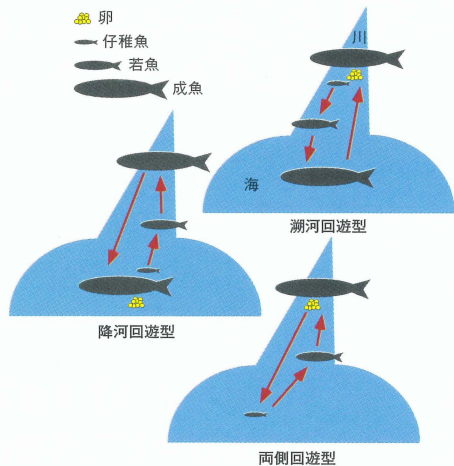


図2 通し回遊魚の回遊型

4月から6月までの博物館普及行事

あなたも参加してみませんか？

シリーズ	行 事 名	実施日	実施時間	対象（人数）
土曜講座	※生きもののくらし	4月13日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50人)
	※中央構造線のはなし	5月11日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50人)
	※画人守住貫魚	6月8日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50人)
野外自然かんさつ	春の植物と昆虫	4月14日(日)	10:00~15:00	小学生から一般(30人)
	立川谷の地質見学	5月19日(日)	10:30~16:00	小学生から一般(40人)
	磯のいきもの	6月2日(日)	11:00~13:00	小学生から一般(70人)
歴史散歩	古墳見学	5月26日(日)	9:00~17:00	小学生から一般(45人)
標本の作り方・名前の調べ方	淡水魚調査法講座① 採集・標本の作り方	6月8日(土)	10:00~17:00	高校生以上(20人)
	淡水魚調査法講座② 名前の調べ方	6月9日(日)	10:00~17:00	①の参加者のみ
企画展 「銅鐸の美」 関連行事	※講座 銅鐸のうつりかわり	4月7日(日)	13:00~14:30	小学生から一般(50人)
	※講座 銅鐸のまつり	4月14日(日)	13:00~14:30	小学生から一般(50人)
	※講座 銅鐸のつくり方	4月21日(日)	13:00~14:30	小学生から一般(50人)
	※記念講演会 銅鐸の絵と子どもの絵-銅鐸絵画の謎に迫る- 国立歴史民俗博物館副館長 佐原 真	4月28日(日)	13:00~14:30	小学生から一般(300人)
	※展示解説	4月2日(日)	10:30~11:30 14:00~15:00	小学生から一般(50人)
	※展示解説	5月5日(日)	14:00~15:00	小学生から一般(50人)
	※展示解説	5月12日(日)	14:00~15:00	小学生から一般(50人)

●※は申し込み不要です。その他は往復はがきでお申し込みください。（各行事の1カ月前から10日前までに届くように）

●くわしいことは博物館にお問い合わせください。

平成7年度の普及行事は、7年4月から8年2月までに57回行われ3872人の参加者がありました。普及行事には、室内実習、野外自然かんさつなど、全部で7つのシリーズがありますが、そのうち講座では毎月第2土曜日の土曜講座と、第4土曜日のミュージアムトークがあります。7年度のミュージアムトークでは、「魏志倭人伝を読むー考古学からのアプローチー」が5回のシリーズで行われました。5回連続受講の条件にもかかわらず、定員50人のところ63人の応募があり、多少窮屈にはなりましたが全員受講してもらいました。最終の5回目は「邪馬台国談義」と題して行われました。

12月17日(日)には、室内実習「落ち葉の中のいきものたち」が行われました。当日の1週間ほど前に落ち葉の下の土の採集に行ったのですが、今年は異常渇水のため土が乾いていました。はたして、動物がいるのか心

配でしたが、場所をいろいろ変え多めに採集したので、当日はたくさんの動物を見ることができました。肉眼ではよくわからない動物でも顕微鏡で拡大してみるとたいへん迫力があり、驚きの声があがっていました。落ち葉の下にはこれだけの動物がいるのかと改めて知らされた感じでした。

1月21日(日)には、歴史散歩「徳島城めぐり」が行われました。37人が鷲の門前に集まり、鷲の門、石垣の積み方の説明を聞いた後、徳島城復元模型や「正保城絵図」などを参考にしながら、当時の建造物の配置や形、使用目的などの説明を聞きました。参加者は、普通本丸におく天守閣が東二の丸におかれていたことや、城の広さが四国の中では、大きな規模（東西約500m、南北約200m）であったことなどに驚かされた様子でした。

